



常道の言葉

日常吾々の使ふ言葉にも常道がある、脱線的な言葉は聞き苦しい、であるから腹を立てたり、癩癩が起たり、賣り言葉に買ひ言葉、阿諛する時の言葉、反抗する時の言葉、高慢ぶる時の言葉、などはことさらに耳立つ氣持ちするものである。とある日M食堂に晝食を取らんとて一テーブルにおち付いた、向ふ側に三十四五歳の會社員とも見受ける客が頻りに女給に注文品の催促をして居つたが、「一體何時まで待たすのか注文してから幾十分と思ふか此處の食堂は注文があつて牛を殺すのかツ」と時既に他の女給はポークカツレツの一皿を運び來つたの

假面劇

である、「御注文は是でふりますか」と一體すると、其客之を見て「ウムウムよろしい」と豚カツを注文して置いて牛を殺すかとの小言を以て女給を叱り飛ばしたのであるトント課が分らない、豚を求めて牛を與へよと考へたことでもなからう、サーピスが良くないのでおれは客ぢやと言ふ意識から不覺不知女給をおどしつけた、それで豚と牛との區別をも考へずこの牛を殺すかと叱つてしまつた、吾々の日常此の如きことありやなしや存外に此笑ふべき例は少くないと思ふ、人の振見て我が振り直せ。(櫻田生)

常道か非常道か

改造子は言ふ、齋藤内閣は圭角の少い、

本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の投稿を望む、一文は百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

たがのゆるんだ人が多いので、存外、社會はヤンハリした、だから公平に見て、暴行為横行の方面には、いくらかの利目はあつたらう、ところが、今議會の醜態はどうだ、……ダラシのないこと夥しい。そして民衆の利益のために何に一つ、まとまつた事績をあげ得ない非常時内閣の腕前だ。あげくのはてが今回のテロ行爲だ。……そして一日も早く掛冠するのが自他のためであり國家のためである。と掛冠が適當か否は後繼組閣者の如何に依るのである、高橋藏相は妙案の持ち合せがないからまとまつた政策を提出し得ないからヨタ／＼として執行して居る、妙案があつたらグズ／＼言はずと國民の方から申出でよと議會で聲明して

居る、だから現内閣の三大柱が既に兎を脱いて居る以上は議論や理屈はない施政上の政策をもつて居る者があつたなら當然政權はそこへ行くのである。政友會は三百近い頭数を揃へて居つても腕の喜三さんでは興津の大和尚がウンと言ふまい、若槻では支持力が足りない、然らば床次系政友と富田、町田兩系民政とが合流すればどうぢや、政策の確かものがあれば其處に政權は落ち着くと見ておる政界通がある、事或は然らんか。政界の雲行に對する觀測は全く秋の空である。(夏木生)

相對か絶對か

世の中には二つの相反する道がある、一つは恐怖、武裝、戰爭、壓迫、却掠、破壊等の暴力の道、一つは忍從、慈愛、協力、感謝、歡喜、喜悅等の平和の道であるとはエー・アインシュタインの説く所である。此アインシュタインは三座法を四座法に訂正した相對性原理を祖述した學者である。

先年相對性原理が突如として輸入せられた時には随分滑稽な錯誤を惹起して相對性とは陰陽の道であるとか男女の關係であるとか説明した學徒もあつた、だがアインシュタインの説く所はソナナものでなくして物理學上のプリンシプルであつた、此理論はやがて宇宙究研上に一大貢獻を寄與するの價値あることは去二月十四日の南洋に於ての日食皆既の觀測に對しアインシュタインの効果が現はれたことに依つても明かである、何んと相對性原理の尊重すべきかが窺はる。ア氏の主張する平和の道が吾人類社會に貢獻する所多からんことを祈るものである。……一日内務省の廊下を通つて居るとある室の入口に「絶對嚴禁」と云ふ文字の標示がある、既に嚴禁とあるのに絶對とは如何のものか相對嚴禁と云ふべきことがあるのであるか「絶對と相對」必しもアインシュタインとは何の關係もなからうがフト觀た絶對の文字から聯想したは相對の二字である。(稲田)

疑がへば疑はるる

東京市廳舎が明治三十一年東京府廳の軒借をして夫れに土木部と水道部と社會局と電氣局等の廳舎が隣に建てられて居るので月島と云ふ尤も新らしく埋立てた泥海の處へ建築することとなつたとの事である、此月島へ幾層のコンクリートの建造物を作つたならノアの箱船と同様だ、泥海の上の船だ、大地震があつたら飛行船と同様だ、其上大東京と云ふ月島方面以外の三方面へ大擴張した區があるのでに此交通不便な地、玉川や板橋區の奥からは一日かゝりでなければ行かない邊陲の地に何故決定したのか、「役所の窓近かく臺場も見えて浪白く海の彼方うす霞む山は上總か房州か」と事務を餘所に市吏員をして保養せしむる目的ならイザ知らず、サモなければ淀橋の給水場の跡もある、日比谷公園の櫻田門寄りの地所もある、牛込市ヶ谷間の濠埋立地もある青山墓地脇の舊陸軍用地跡もある、三

宅坂脇内務大臣官舎隣接地もある青山電車庫地もある、新宿電車庫地もある、砲兵工廠跡もある探がせば其外何處でも融通あるべき地がある、何を苦んで月島を撰んだか疑へば疑はるる、市長、助役、市参事會員市會議員各位は一日も速かに目を醒まして市民の生活に着眼し努力と熱心とを以て正しき道に出でられよ。(斬馬劍生)

蟬翼重きか

世界の資本主義も何とか轉向しなければならぬ時代となつたが如何に論戦しても政治の道も方向轉換を餘儀なくせらるゝ世相となつた、齋藤寄木細工内閣も取り換へ置き替へて後繼者なきを機として延命を策せられて夫が奏功して居ると思はるゝ、政治の道は國策の樹立と其遂行に在るのは何人も異存がない所である、固より末葉の政策は持合はせはあつても根本的政策に屬するものが何處に見出され得るか、寧ろ夫れは閉却視せられて居る、蟬翼重くして千鈞

輕しとなすものである。軍事及外交から来る重壓が歳と共に加はり國民の不安心は日を追ふて増して来る、夫れが軍事費第一主義の豫算が成立して鐵工工場が擴張せられ製作業が有卦になつたと云ふものゝ八千萬國民の民族的活動と使命とをどうリードする考へであるか、現内閣の運命も何んだか想像され易くなつた、後繼内閣は何人に依つて組織せらるゝものか、之を天地運行の氣象に鑑るに日本主義者平沼男爵であらう、昨年以來平沼内閣説は下火になつたといふものの運勢は平沼男にある、夫れは他でない政黨の信用は恢復しない、ミリタリストは國民の一部に喜ばれない、純然たるファツシズム主義者では新らしすぎる、其處で超然内閣主義——政黨無視派の首領平沼男が政權を掌握するのは當然の道である但其長命か短命かは絶対的の不明だが、齋藤内閣は必ず平沼内閣に依つて相續さるるのであらう。常道か非常道か僕も知らない世人も知らないであらう。(敬)

危道か鬼道か

明治維新後暗殺の犠牲者となつた知名の人物を視るに大久保利通、板垣退助、大隈重行、森有禮、星亨、伊藤博文、原敬、濱口雄幸、犬養毅、安田善次郎、井上準之助、團琢磨、武藤山治、大杉榮、山本宣治の諸氏であつて辛うじて其生命を保つことを得たのは大隈、板垣兩氏である、そして暗殺者は大體認錯覺偏見等自己中心的感覺から暴舉に出たものである、冷靜事を勘考し公正の判断と雅量寛容の精神とを缺如せるものである。又形式的な愛國的教育、偏狹な民族的感情の助長が暗殺賣名にまで興奮せしむる結果である、彼の赤穂義士傳を宣傳して國民精神の振作工作の具と爲すが如き被教養者の多數は大石良雄の精神に學ばずして其手段を見習ふのであるから大杉虐殺事件や五・一五事件も發生し之に同情するものも存するのである、國法蔽として存し、大權の作用に依らなければ人命を死

に付することは許されぬに拘はらず、感情的な自己中心の判断に依つて他人の行爲を是非し、合法手段を待たずして妄りに私的暴力を以て人命を断絶する行爲に出づるは明かに大權干犯である國法紊亂である、革命的行動である、社會的危道否鬼道である而かも其手段を撰ばない横暴に對し同情を以て臨むが如き實に憂慮に堪へないことである、國體尊重主義に取つては明かに反逆するものである。之れ國民指導上其用意の缺如せる好適例である、殺人狂的偏質性の匡正に對しては大に省みる所がなければならぬ。固陋の偏見者達に對し三省も五省も要求せねばならぬ所である。(トピシ)

街路上の二美譚

事は餘り新らしくはないが街路上の二つの美譚は妾の日記に特記されてあります、一は警官も涙ぐんだ銀座街頭の一事實ですそれは銀座七丁目で青バスと圓タクと衝突した、バスの女車掌は忽ち路上に投げ出さ

れた、時に一青年が飛出して抱き起し介抱した。警官は事故圏外に去れと、ドナリ付けた處がその青年の言ふのに「此娘さんは私の隣の人で病父と二人暮しです昨夜も一睡もせず看護したです否幾夜も徹夜看護して居るから疲勞しきつてをるです。此孝女を一刻も早く病院へ」と警官も感激、圓タク運轉手も感激、美しい人情の花は早春街頭に咲いた。一つは市電バスの模範的女車掌に對し一婦人青狐のゑり巻の女冬木雪子の變名で眞情をこめた感激の手紙と金五圓爲替を送つて「氣が張つて居るから寒くありません」と答へた勤勉誠實緊張した心の持主石垣静子さんに感謝と慰安とを與へた事實です、静子の父は日露戦役滿洲の野で負傷し廢兵となつて貧困の生活裡に在つたが二年前死去した静子さんは後に殘る家族——赤貧洗ふが如き家の運命と老ひ行く母親の姿を座視するに耐え得ずジャズやレヴューに遊び騒ぎたい十八歳の身を以て奮然家庭より街頭へと職業戦線に出られた、

有閑マダム中の心ある青狐襟巻夫人をして感激措く能はざらしめて「暖い毛の襟巻なんか妾等の様な働のない人の身につくべきものでない、貴い勞働に従ひ市民の爲めにサーピス第一線に活動する人々にこそ必要なものだ」と自省せしめた、静子さんには異なる職業人ではあるが私共も耻しい氣がします、可成仕事を避けて道樂氣分で其日暮らし只俸給や賞與を只取りにする様な者の少なくない世の中で餘りにももつたない感じがします、私共も努めて倦まない眞劍味を養ひませう。(フミエ)

夜嵐のサラリと

庭の木蓮花

麻雀に更けて小路を

猫の戀

梅の窓雨となりけり

狂詩人

巴藤